

高い抗酸化作用を持つ超硫黄分子の特性解明へ、
老化を防ぐ医薬品・食品の開発に貢献
「島津製作所×東北大学 超硫黄生命科学共創研究所」を設置

島津製作所は、(大)東北大学と「島津製作所×東北大学 超硫黄生命科学共創研究所」を設置し、2024年4月から3年間にわたり共同研究を行います。生体の老化メカニズムに関連する超硫黄分子の特性を解明し、疾患の診断や治療法の確立、機能性食品の開発を目指します。当社は2021年、超硫黄分子研究の第一人者である東北大

学大学院 赤池孝章教授の研究室と、当社製液体クロマトグラフ質量分析計(LC-MS)を用いて生体内の超硫黄分子を測定するソフトウェアを開発しました。今後はより多くの種類の超硫黄分子を一斉に分析する手法の開発や、イメージング質量顕微鏡「iMScope™」を用いた臓器内分布の観察などに取り組みます。(2024.3.13)

「健康経営優良法人～ホワイト500～」と
「プラチナくるみん」に認定

健康経営に優れた上場企業として、経済産業省と日本健康会議による「健康経営優良法人～ホワイト500～」に8年連続で認定されました。また、厚生労働大臣より「プラチナくるみん」の認定を取得しました。当社は2009年に「くるみん」認定を取得しており、このたび、より高い水準で「子育てサポート」に取り組んだ企業として「プラチナくるみん」の認定に至り

ました。(2024.3.11/7.30)



業容拡大に向けて物流・ラボ・システムGC組み立て機能を強化
中東・アフリカ地域統括会社SMEAが本社事務所を新築

島津製作所の中東・アフリカ地域統括会社であるShimadzu Middle East & Africa FZEは、アラブ首長国連邦ドバイ首長国に新たな本社事務所を竣工しました。新事務所の延べ床面積は旧事務所の約4倍で、分析ラボや医用機器のトレーニングセンターを大幅に拡充しています。これにより、ガ

スクロマトグラフ(GC)のカスタマイズ製品の組み立て・出荷機能も強化され、中東・アフリカ地域での島津ブランドの強化とGCの拡販に注力します。(2024.4.25)



北米の研究開発体制とビジネスを強化

島津製作所の米国子会社 Shimadzu Scientific Instruments, Inc. (以下 SSI) は、分析計測機器の製品開発機能を強化するため、R&Dセンターを設立しました。本センターは、SSI 本社に併設するメリーランド本部和、東海岸(マサチューセッツ州)、西海岸(カリフォルニア州)の3拠点で構成されます。SSIは、製薬企業向けに事業を拡大して北米での売上高を2025年度に700億円超に伸ば

す計画です。
また当社は4月に SSI等を通じて、分析機器メンテナンス・サービス会社の Zef Scientific Inc. と、医用機器販売代理店である California X-ray Imaging Services, Inc. を買収しました。これにより、北米市場における分析機器のアフターサービス充実や西海岸における医用機器の直販体制強化を図ります。(2024.4.5/4.15/5.7)

「温室効果ガスアナライザー」を発売
分析計測技術でカーボンニュートラル実現に向けた研究を支援

温室効果ガス(GHG)測定用に特化したガスクロマトグラフ「温室効果ガスアナライザー」を発売しました。二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)、一酸化二窒素(N₂O)の3成分を一度に高精度で測定でき、農業分野などで高精度かつ高効率に分析データを提供します。なお、本製品は(国研)農業・食品産業技術総合研究機構の特許※を利用して開発しました。(2024.5.30)



NARO way DEVELOPED WITH NARO
温室効果ガスアナライザー

※「大気ガスの測定方法及び装置」特許第4406694号
および特許第6843395号

質量分析計「LAMS-50K」が「IEEE Milestone」に認定

レーザーイオン化質量分析計「LAMS-50K」(1988年2月発売)が、電気・電子分野の国際学会 The Institute of Electrical and Electronics Engineers に、誕生から25年以上を経た重要な技術業績を称える「IEEE Milestone」に認定されました。認定の理由は「ソフトウェア脱離イオン化技術を応用した世界初の製品で、分子

生物学や医学などの分野に貢献し、新たな診断や創薬へとつながった。装置開発者の一人である田中耕一は、2002年にノーベル化学賞を受賞した」です。(2024.5.27)



※NEWS & TOPICSでは法人名・団体名を以下のように省略しています。株式会社…(株)、国立大学法人…(大)、学校法人…(公)、公益財団法人…(公財)、一般社団法人…(一社)、相互会社…(相)、国立研究開発法人…(国研)
※記載されている会社名、製品名、サービスマークおよびロゴは、各社の商標および登録商標です。なお、本文中では「TM」、「®」を明記していない場合があります。※所属・役職は取材当時のものです。

〈読者のみなさまの声〉 ◆巻頭特集では頑張っている人のお話から力を分けてもらっています。◆大好きな宇宙に関連したプラネタリウム・クリエイター大平貴之さんの記事がとても興味深かったです。神秘的な宇宙を身近に体験できるプラネタリウムを、ここまで素晴らしいものに育て上げられた情熱には本当に感服します。分野は違えども、「好きこそものの上手なれ」ですね。◆宇宙関連事業は夢があって、分析関連研究者にはモチベーションを上げてもらえる。◆親野智可等さんの記事が参考になりました。自己肯定感を高める褒めと、Yes, Yes, But を実践しようと思います。◆初めて御社のコミュニケーション誌を拝見させていただきました。人との関わりが難しい昨今このような人間のお話がかかれていてと読み込んでしまいました。WEB版でも次回も読んでみたいと思いました。

〈編集部より〉 編集メンバーになって1年。はじめての編集後記です。縁あってお客さまとのコミュニケーション誌の制作に携わることになりましたが、1999年の第1号から四半世紀を超える小誌とは創刊時からの付き合いです。当時は営業部門に所属しており、島津製作所のビジネスとは少し距離をおいた「ぶーめらん」は、お客さまとともに気軽に読むことができ「そうそう、へーそうなんだ」と盛り上がったことを憶えています。懐かしくなって思わず創刊号の目次をひもといってみました。そこには「コンディショニング『体そして心』」や「暮らしにひそむ環境汚染」など、現在でも話題になり社会問題になっているキーワードが目に見え込んできました。これからは読者の皆さまに有益な情報をご提供できるよう、100号に向けて編集メンバー全員で努力したいと思います。